

海峰小学校運動会

5月18日(土)、海峰小学校で運動会が行われました。快晴に恵まれて、子どもたちは競技や演技に元気に取り組んでいました。



かいほうきっず

4月25日(木)、入園前の子どもを対象にした「かいほうキッズ」活動の第1回目がありました。子どもの日が近いこともあり鯉のぼりを作りました。以後の活動日は、次の通りです。

5/23, 6/27, 7/18, 8/27, 9/26, 10/24, 11/28,
12/19, 2/20, 3/13

※詳細については、佐伯三美子さんにお問い合わせください。



阿尾公民館運営委員会及び阿尾地区社会福祉協議会総会



4月19日(金)、公民館運営委員会と社会福祉協議会総会が行われました。26名の方に参加していただき、令和5年度の事業結果や決算報告、令和6年度の事業計画や予算案等について審議しました。また、地震対応についても話題に出ました。

令和6年度の主な行事は、下記の通りです。

- ・7月28日(日)…よくばりウオーキング(「令和」と山門:速川地区)
- ・10月26日(土)～27日(日)…阿尾公民館祭

この他にも、歩こう会や配食サービス、ふれあいクッキング、男性料理教室等が予定されています。後日、公民館だより等でご案内いたしますので、是非ご参加ください。

*公民館主事の独り言

「自分とは何でしょうか？」
「体」というと、そうではありません。
体の細胞は3ヶ月もあればすべて入れかわります。そうすると、もはや「別人」では、「心」が自分かといえ、これも証明できません。
「昨日の心」と「今日の心」が同じだと言える根拠は？
そもそも、「昨日の自分」と「今日の自分」が同じだと言える根拠は2つしかありません。

それは、自分自身の「記憶」と「承認」だけです。

例えば朝起きて、記憶がすべてなくなっていたとしたらどうでしょう。あるいは、周りの人間すべてが、自分のことを別人「Aさん」と言い出したらどうしますか？



※「前向き生きる」ことに疲れたら読む本 南直哉著 参照

「Aさん」として生きるか、精神を病むかしかりません。それくらい「自分」とはもろいものです。

人はこの世に「たまたま」生まれ、他人から「自分」にさせられたのです。その「自分」を受け入れるためには、人から認められ褒められなければなりません。自分でなく人が選んだ服を着ているのですから、誰かから「似合うね」「いいね」と言われて初めて安心でき、その服を着る気になれます。人間の最大の欲求は、自分を「自分」にしてくれた存在、つまり、他人から承認されたいことなのです。

「苦しさ」に立ち向かうのではなく、「自分」と折り合いをつけて、「やり過ごす」生き方も時には大事ではないでしょうか。

○6月の講座案内

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花(池坊)	第1・3水曜日	5日 19日	西山栄津子	10:00～14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	3日 17日	猶明 光華	13:00～	洋室
学童茶道&百人一首	原則毎週木曜日	6日 13日 20日 27日	栗山 静子	15:00～	和室
手芸	第3火曜日	18日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	1日 8日 15日 22日 29日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	7日 14日 21日 28日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	3日 5日 10日 12日 17日 19日 24日 26日		13:30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	3日 17日	東軒みさ子	19:00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	8日 22日	名苗くみ子	10:00～	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

6月のふれあいランチ

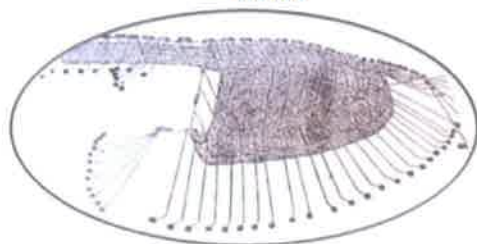
阿尾…6月8日(土)、指崎…6月21日(金)

○おらっちゃん風土記

(定置網編)

※「台網から大敷網へ」小境卓治著 日本海学研究叢書 参照

大敷網

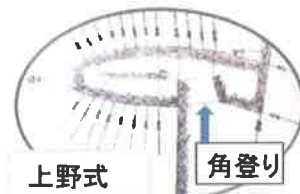


明治初年頃、各通統が一本化する風潮が生まれ、わら網から麻ちよう網、綿糸網に変わっていった。同40年、堀埜与右衛門、藪谷弥右衛門らによって九州から大規模な三角形の身網をもつ「日高式大敷網」が導入され、ブリの大漁をもたらした。

さらに、大正初め、上野八郎右衛門が楕円形身網と網口の小さい角登り、魚群が回遊する運動場を設ける等「上野式大謀網」に改良した。この上野式の網には、矢引の片方が網の中に設置したため、波で揺れて魚を身網の方へ追い込むおどしの働きがあった。従来の大敷網にとってかわった。

また、この角登りの部分には底網がなく、身網の部分だけをあげればよいという利点があり、労働時間の短縮につながった。

材料は、わらに代わった麻ちようがさらに綿糸に、なわ網はマニラロープに代わり規模も大きくなり、一層沖合への建入も可能になった。浮子も杉を割った「ろくはん」が桐に代わりモウソウ竹に代わった。



(コラム)

上野八郎右衛門

※「氷見の先賢」氷見市教育委員会 参照



明治10年12月、阿尾村に生まれた。8歳の時、父が亡くなり、田地はすでに人手に渡り、ただ漁業権のみが残っていた。まだ15歳の八郎右衛門は、家長として、家運を盛り返そうとする決意を新たにしていた。幸い体格に恵まれ頑強であったため、日夜漁業に精励し、一漁夫としてつらい労働に従事した。

明治40年、八郎右衛門は高知県下の鰺漁業を視察した後、大境沖に初めて日高式鰺大敷網が敷設され、氷見では空前の豊漁を記録した。しかし、この網は魚群が入りやすいが逃げやすかった。北海道や静岡へ出向き、一漁夫として働きながら網について学んだ。大正初年頃、八郎右衛門は、上野式大謀網を考案した。使用期間は、2～3年と極めて短かった。